

2023年度

科目名称	子どもの作業療法応用
授業コード	AE321
英語名称	Application of Occupational Therapy Theory Pediatrics
学期	2023年度前期
単位	1.0
担当教員	石井 孝弘 (医療科学部), 中山 彰博 (医療科学部), 宮田 朋典 (医療科学部)
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	<p>子どもを対象とする作業療法の治療計画、治療実施について各々専門的に理解を深めさせ、実際の手法や手技についても演習する。主要対象疾患は脳性麻痺、精神遅滞、自閉症、学習障害、進行性筋ジストロフィー、二分脊椎、分娩麻痺、先天異常などである。加えて一般的な疾病・外傷であっても対象が小児である場合の配慮に関しても教授する。</p> <p>作業療法で用いる治療手技としての神経発達学的アプローチの基礎的な手技、感覚統合療法に関する知識技術をさらに深めその具体的な手技について学習する。</p> <p>さらにペーパープランニングとして目標の設定の基本的な考え方、問題点の理解と抽出、治療プログラムの立案、考察ができるようになることを目標に学習する。</p> <p>1.発達障害の代表的疾患の概要を知り、作業療法実施に役立てる。 2.発達障害分野の作業療法で用いられる治療の概要を理解する。 障害児の理解とその支援の方法を学ぶ。 障害児に対する支援の方法を具体的にを行う際の倫理的配慮についても学ぶ。 実際の場面における作業療法士の役割の中で倫理的配慮について理解することができる。</p>
科目に関連する実務経験と授業への活用	<p>「実務経験のある教員による実践的科目」</p> <p>1、地域における発達障害児支援、放課後等デイサービスでの発達障害児等の支援、乗馬療法を実践している教員による科目である。担当：石井</p> <p>2、呼吸理学療法を専門として知識技術を修得している教員による科目である。担当 理学療法学科教員</p>
到達目標	<p>カリキュラムポリシーに掲げる「人体の構造と機能及び心身の発達、疾病・障害の成り立ちと回復過程および保健医療福祉とリハビリテーションの理解などから作業療法の基礎知識を学ぶ、基礎作業療法学や評価学、治療学、管理学などから、作業療法の実践を学ぶ」が実現するよう、作業療法において支援の目的でもあり手段でもある「作業」の基本的な知識を身につける。</p> <p>1. 発達に影響を及ぼす代表的疾患を知り、説明することができる。 2. 発達障害分野で用いられる評価手段および治療法の概要を理解し、説明することができる。 3. 発達障がい分野の代表的疾患障害について治療までを実践することができる。</p> <p>研究者倫理に関する規範意識として、研究者の行動規範、遵守すべきことなど理解した上で研究に取り組むことができる。</p>
計画・内容	<p>予習 先天性疾患 染色体異常 1 先天性疾患 染色体異常 担当教員 石井孝弘 作業療法士 復習：予習 先天性疾患 染色体異常 分娩麻痺 2 分娩麻痺 担当教員 石井孝弘 作業療法士 復習：予習 分娩麻痺 小児整形外科疾患 1、先天性関節拘縮症、骨形成不全症、他 3 小児整形外科疾患 1、先天性関節拘縮症、骨形成不全症、他 担当教員石井孝弘 作業療法士 復習：予習 小児整形外科疾患 1、先天性関節拘縮症、骨形成不全症、他 小児整形外科疾患 2、先天性奇形、骨端症、他 4 小児整形外科疾患 2、先天性奇形、骨端症、他 担当教員 石井孝弘 作業療法士 復習：予習 小児整形外科疾患 2、先天性奇形、骨端症、他 神経筋系障害領域、筋ジストロフィー</p>

2023年度

<p>計画・内容</p>	<p>5 神経筋系障害領域、筋ジストロフィー、 担当教員 石井孝弘 作業療法士</p> <p>復習：予習 神経筋系障害領域、筋ジストロフィー、神経筋系障害領域、筋ジストロフィー</p> <p>6 神経筋系障害領域、筋ジストロフィー、 担当教員 石井孝弘 作業療法士</p> <p>復習：予習 神経筋系障害領域、筋ジストロフィー、 知的障害、ダウン症、てんかん、場面緘黙、障害の概要と作業療法の視点</p> <p>7 知的障害、ダウン症、てんかん、場面緘黙、障害の概要と作業療法の視点 担当教員 石井孝弘 作業療法士</p> <p>復習：予習 知的障害、ダウン症、てんかん、場面緘黙、障害の概要と作業療法の視点 自閉症スペクトラム障害</p> <p>8 自閉症スペクトラム障害 担当教員 石井孝弘 作業療法士</p>
<p>授業の進め方</p>	<p>1. 各テーマごとの講義およびスライド、動画等を用いる。 2. 毎授業ごとに課題を提示する。</p>
<p>能動的な学びの実施</p>	<p>問題解決学習：具体的な障害のある子どもの状況から問題点がどこにあるのかなどを探る。実践力を身に付ける。</p>
<p>授業時間外の学修</p>	<p>授業前の予習は、教科書、参考書等の該当箇所を読み、不明な点をまとめておく。 授業後の復習は、教科書、参考書、プリントと授業内容を関連付けて自分の講義ノートを整理すること。（合計15時間程度）</p>
<p>教科書・参考書</p>	<p>参考書：奈良 勲 / 鎌倉 矩子 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第5版 医学書院 2018 参考書：田村良子 作業療法学全書 改訂第3版 第6巻 作業治療学3 発達障害 協同医書 2010 参考書：金子芳洋 食べる機能の障害 その考え方とリハビリテーション 医歯薬出版 1987 教科書：真野幸雄 漢訳 「理学療法・作業療法のための神経生理学プログラム演習2：運動発達と反射 反射検査の手 1987</p>
<p>成績評価方法と基準</p>	<p>最終回に課題を提示してレポートとして提出する80%、 授業時間中に提示する課題20%</p>
<p>課題等に対するフィードバック</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の質問については即時回答する。 ・授業中に提示した課題については、次の授業でフィードバックする。
<p>オフィスアワー</p>	<p>「CampusSquareを参照」</p>
<p>留意事項</p>	<p>必修科目。 授業中の質疑応答には積極的姿勢で臨むことを期待する。 試験に関しては、大学入学後に学習してきたことを基礎に行うこととする。 特に配布資料、板書、さらに教員が話した内容の要点をノートに取ることなどが重要である。 授業中の質疑応答には積極的姿勢で臨むことを期待する。 ノートを必ず取ること。</p> <p>この科目は、子どもの作業療法基礎と称しているが、内容は成人の中枢神経系の障害などにも関連する。また将来作業療法士として業務に従事する際には、役に立つ内容であることから、積極的に授業には望んでほしい。</p> <p>特に反射反応などは、国家試験にも出題されている。</p> <p>授業中に提示した課題の提出を出席の確認に用いる。</p>

2023年度

非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	1. 各テーマごとの非対面型の講義はオンタイムもしくはオンデマンドにて動画配信する。 2.最終回に課題を提示してレポートとして提出する80%、 授業時間中に提示する課題20%
------------------------------------	---